

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

② 施設・事業所情報

名称：白百合乳児保育園	種別：児童分野 認可保育所
代表者氏名：園長 川野 波	定員（利用人数）： 103 名
所在地：〒221-0041 横浜市神奈川区亀住町9-5	
TEL：. 045-461-5031	ホームページ： https://shirayuri-nyuuji.com/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 1971年 3月 3日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 白百合会	
職員数	常勤職員： 18名 非常勤職員 13名
専門職員	園長 1名 保育士 20名
	看護師 1名 栄養士 2名
	調理員 2名
施設・設備 の概要	（居室数）8室 （設備等）
	遊戯室、調理室、ほふく室、調乳室、休憩室、事務室、理事長室など

③理念・基本方針

<p>■保育の理念</p> <p>(1) 子どもの最善の利益を求める「子どもの権利条約」を遵守し、児童憲章、児童福祉法を守り発展させていきます。</p> <p>(2) 保育を必要とする乳児・幼児を養護・教育し、すべての子どもの発達を保障していきます。</p> <p>(3) 地域社会で子どもの育ちを最優先する立場から施設開放、子育て中の育児不安等の相談など保育所を地域社会の有用な社会資源として活用を図ります。</p> <p>(4) 激しく変化する社会のなかで保育に対するニーズは、複雑化し更に多様化しつつあります。このニーズに応えていくことのできる広い社会的視野にたち、たえず保育内容の改善をすすめます。</p> <p>■保育方針</p> <p>(1) 子どもたちが、心身ともに健やかに成長・発達できる保育内容・良好な環境を保障します。</p> <p>(2) 保護者の方々も、安心して働き続けることができる保育環境を整えます。</p> <p>(3) 保護者の方と手を取り合って子育てをし、その成長の喜びを共感できる関係を築いていきます。</p>

④施設・事業所の特徴的な取組

園は、住宅街にあり、近隣の住民に暖かく見守られ、家庭、地域、保育園の皆で子どもたちを育てていく姿勢を大事にしています。公園や足を延ばせば自然豊かな林など

もあり、季節を感じるすることができます。

0歳児から就学前までの子どもたち、一人ひとりが愛情を持って大切に育てられ、規則正しい基本的な生活習慣が身につくように、また友だちと一緒に遊んだり学んだりする中で、丈夫な身体、自立心、協調性を身につける育ち合いの場として、家庭と地域、保育園とが協力し合い、共に学び合いながら保育を進めています。

「子どもを真ん中に」「心と体を育てる食育」「学びあう職員集団」を法人が大切にしている3つの輪とし、子どもの最善の利益を常に考えていくこと、食べることが大好きな子どもになるよう食材にこだわり、丁寧に食に関わっていく取り組みをしています。また、職員は常に自己研鑽に励み、専門性を高めることを求められています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年5月23日（契約日）～ 2022年10月11日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（2017年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

【特長】

◆保育士に見守られて子どもたちはのびのびと保育園生活を楽しんでいきます

園は、「丁寧な保育」を心がけ、園長は職員に、声をかけすぎず、子どもの自主性を尊重した見守る保育を行うよう伝えていきます。保育士は、慌てず、せかすことなく子どもが自分でやりたい気持ちになって行動できるよう準備の時間をたっぷり取っています。優しく声掛けして出来ないところを手伝っています。子どもたちは公園でドングリや虫、葉っぱを集めたり、かけっこしたりして楽しんでいます。保育士は絶えず危険が無いよう見守り、虫探しやかくれんぼなど一緒に遊び、子どもたちのやりたいことに寄り添っています。保育士は、子どもに「何がしたい」と問いかけ、自分たちで決められるよう働きかけています。

食事中に、おままごとを続けている子どもに無理強いすることなく、盛り付けられた食事を見せて「好きなカボチャがあるね」と声掛けすると、子どもは「食べたーい」と片付け始めました。遊戯室では、「跳び箱と仲良しになる」を目標に、幾つかのアスレチックが設けられています。どこからするか子どもの自由です。やらない自由もあり、初めは座っていた子どもも他の子どもにつられ次第に汗をかきつつダイナミックに動き回り、跳び箱に挑戦しています。この様に子どもたちは、見守られながら自分のしたいことを自由に発揮して楽しんでいます。

◆職員は園長を中心に保育の理念の共通認識を持って保育をしています

園長は、子どもの人権を一番に、保育が適切に行われているか振り返ることが大切と職員に伝えていきます。正しいと思っていることが子どもにとっていじわるでなかったかと振り返る考え方が職員に浸透していて、職員の振り返りが個々の子どもに对应することに繋がっています。職員は、園長が常に言葉にしている「子どもの行動には理由があり、常にやり方を振り返ること」を念頭に、自分の行動が良かったのかと確認し、互いに話し合っています。通常の会議のほか、早急に協議が必要な場合は子どもの午睡の時間を利用し、子どもの見守りの為に他のクラスの職員が随時応援に入るなど、職員間で柔軟な協力体制を構築しています。園長は、保育室を見て回り、毎日の保育日誌などから保育の内容や子どもの発達を把握して、その都度指摘するようにしています。職員は、子どもの願いをかなえることを大切に、子どもを中心にした関係性を築き、個別性を尊重した保育が行われるよう努めています。

◆子どもたちは多彩な食育への取組に興味を広げています

子どもたちが、食に関して豊かな経験ができるよう年間指導計画に食育の項を設け、食育計画と食育活動年間予定表を作成し、栄養士と保育士は協力して各年齢に合わせた具体的な取組を実施しています。クラス毎に夏野菜を栽培して給食で食し、4、5歳児クラスは枝豆から大豆を育て、2年にわたって味噌作りをしました。また、絵本のきびだんごから「『きび』ってなに」と職員にたずね、給食で食している雑穀ごはんにきびを見つけ、黄色であることを知ることができました。職員は、子どもが興味を持ったことを発展させるなど、年齢合わせた食育活動に取り組んでいます。

【今後に期待される点】

◆子どものプライバシー保護のあり方を見直し、さらなる職員間の意識共有化に向けた取組みが期待されます

園では、業務マニュアルや職員自己評価に法令遵守の項目を盛り込み、子ども・保護者の権利やプライバシーを尊重した関わりに努めるとともに、子ども一人ひとりの個性を尊重し、自由な環境の下でのびのびと過ごせる保育の実践に努めています。この様な園の良さをなくさないようにしながらも、子どものプライバシーを見直す機会と捉え、マニュアルを作成するだけでなく子どもの年齢や発達段階、羞恥心など、個別性に配慮したさらなる対応の工夫が期待されます。また、プライバシー保護に関して、職員間の認識を深め共有化を図る取組も期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

園で大事にしているひとりひとりの子どもの気持ちを大事にした丁寧な保育、基本方針や園目標に向けての取組みを理解していただいたと思っています。職員の振り返りの姿勢などを評価していただいたことは、とても励みになりました。

今回C評価になった「プライバシーの保護」に関しては、小さい頃から自分の体、心は大事に守られるということを文章化できていなかったのが、早急に整えていくつもりです。また課題に取り組むための長期的な計画も、法人本部と相談しながら具体的にしていこうと考えています。

指摘を受けたことは、どれも必要なことと理解できました。今回のことをきっかけに、より良くなるよう努めていきます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり